

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第33週 (8/10-8/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	33週	32週	31週	30週
小児科	15	13	17	18
眼科	3	4	5	5
インフルエンザ*	22	21	27	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/10-8/16	8/3-8/9	7/27-8/2	7/20-7/26	8/3-8/9
			33週	32週	31週	30週	32週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1
	咽頭結膜熱		0	0	1	1	5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	3	5	6	98
	感染性胃腸炎		17	32	32	27	158
	水痘		1	1	1	0	22
	手足口病		2	0	1	1	9
	伝染性紅斑		0	0	1	0	1
	突発性発しん		12	12	10	15	60
	ヘルパンギーナ		0	1	0	1	12
	流行性耳下腺炎		1	1	3	1	8
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		2	0	0	0	5
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	1	0	0	3
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(40件)

※新型コロナウイルス感染症36件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出等				
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出

・第33週は、結核2件(93)、レジオネラ症1件(9)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(11)、新型コロナウイルス感染症36件(352)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第33週のコメント

過去10年の同時期と比べると、突発性発しん及び流行性角結膜炎がほぼ平均レベルである他は、全て平均未満となっている。

<トピック>

<カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症>

第33週に1件の発生届があり、2020年の累積数は11件となり、2014年から2019年の同時期の累積数と比べると多めとなっています(図1及び図2)。11件の内訳は、男性8件(年齢中央値71.5歳:範囲65歳~80歳)、女性3件(年齢中央値71歳:範囲67歳~72歳)で、病型では、肺炎が3件、尿路感染症及び胆管炎がそれぞれ2件、菌血症、髄膜炎、腹膜炎、手術創感染がそれぞれ1件で、いずれも90日以内の海外渡航歴はありませんでした。11件の内、解析データがある1月から6月までの7件について、検出された菌は、*Enterobacter aerogenes*が3株、*Enterobacter cloacae*が4株でした。7株の分離検体は、喀痰及び胆汁からそれぞれ2株検出されている他、血液、尿、髄液からも検出されています(図3)。7株の内、カルバペネマーゼ産生菌(CPE: carbapenemase-producing Enterobacteriaceae)は2株で(28.6%)、その内訳は全てIMP型であり、海外型のNDM型、KPC型、OXA-48型はありませんでした。また、IMP型2株の菌種はいずれも*Enterobacter cloacae*でした(図4)。

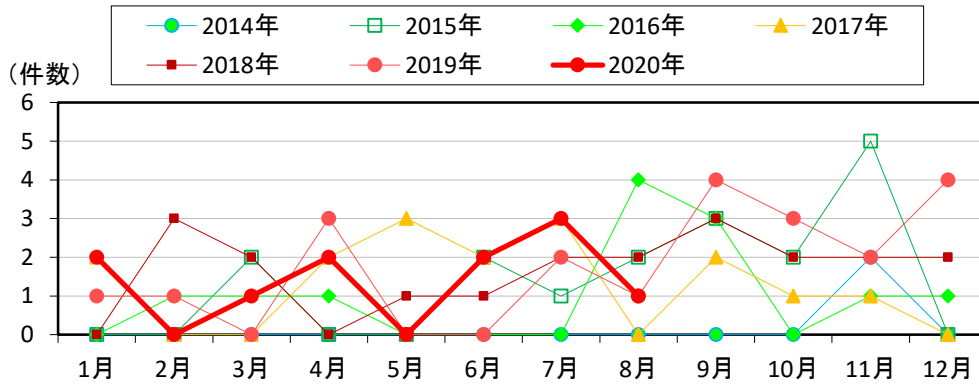


図1 CRE感染症発生届数 (2014年9月~2020年8月第33週)

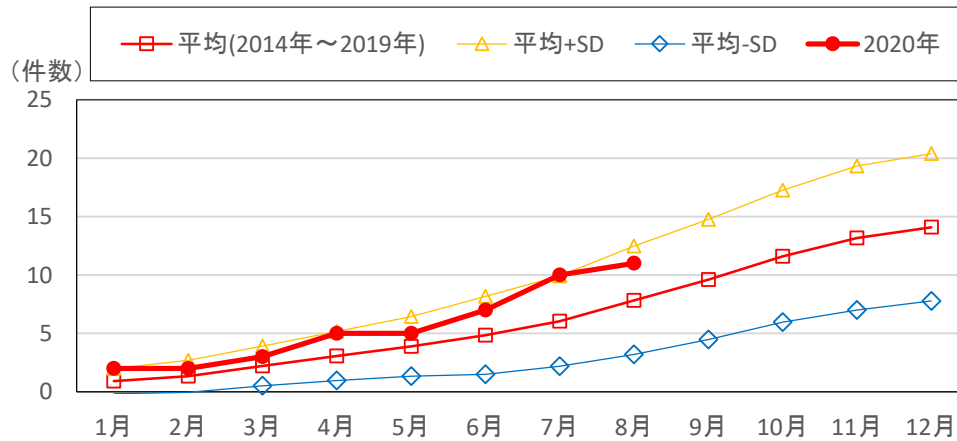


図2 CRE感染症発生届出数累計 (2014年9月~2020年8月第33週)

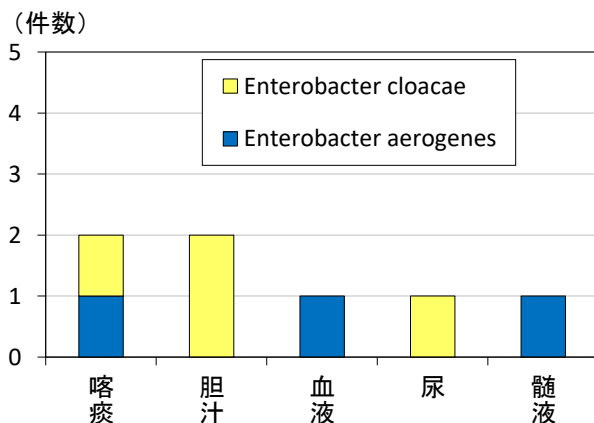


図3 検体別の分離菌株数

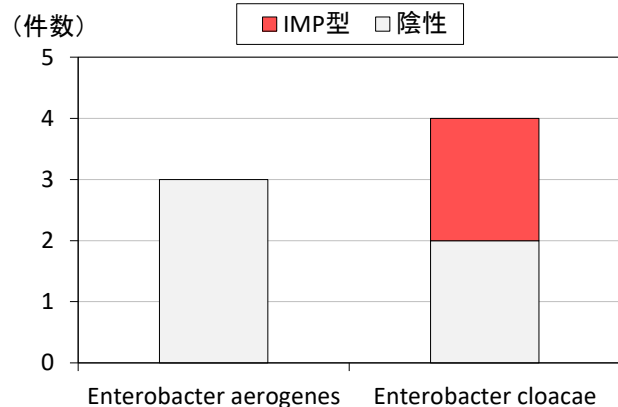


図4 菌種別耐性遺伝子の保有状況